

平成22年度 伊万里市立波多津小学校 学校評価計画

1 学校教育目標
<p>「自ら学び、心豊かに明るくたくましく生きる児童の育成」                  ～夢と感動を子どもたちに～                  校訓：精いっぱい</p>



2 学校経営ビジョン
<p>【めざす学校像】 ①真剣に学習に取り組み、活気のある学校 ②よさを認め合い仲良く助け合う学校                  ③家庭・地域と連携を深め、開かれた学校</p> <p>【めざす子ども像】 ①よく考え、進んで学習する子ども ②友だちと協力し、相手を思いやる明るい子ども                  ③何事にも積極的に挑戦し、がんばる子ども</p> <p>【めざす教師像】 ①教育公務員としての自覚を有し、児童・保護者・地域社会から信頼される教師                  ②日々新たに、研修・研鑽に励む教師 ③一人一人の子どもを愛し、教育に使命感を持つ教師                  ④健康保持に率先して努め、心身ともに健全ではつらつとした教師</p>



3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
<p>(1) 「自ら学ぶ力」の育成（知）</p> <p>(2) 「心に響く教育」の推進（徳）</p> <p>(3) 「健康・安全教育（一輪車教育）」の推進（体）</p> <p>(4) 地域と結びつき、開かれた学校づくり（地域連携）</p>	<p>・本校の特色である「一輪車教育」を柱に、地域に開かれた学校として教育活動を展開しており、このことは、ここ数年、保護者・地域からも高い評価を受けている。昨年度も「体験活動」を重視し、“本物”にふれる、“地域の達人”“専門家”に学ぶことを積極的に行った。これらの体験活動を通して、保護者や地域の方々とのふれあいができ、本校児童のコミュニケーション力の向上にもつながってきている。また、昨年度は、「チェンジ（ニュー波多津小）」を児童・保護者・地域に宣言し、学校行事の精選等を積極的に行っていた。アンケート結果を見ると、概ね良い評価を受けている。さらに、保護者や地域等に対しての情報発信（月2回以上の学校だよりの校区内全世帯への配布、学校ホームページのほぼ毎日の更新、はなまる連絡帳の有効活用、町内行事への参加等）ができたことにより、学校の具体的取組内容を啓発し、保護者の理解・協力を得ることができたものと思われる。学校内では、職員間の報告・連絡・相談の徹底を常に心がけたこと、職員一人一人が“教えるプロ”としての自覚と熱意を持って教育活動に取り組んでいったこと、そしてそれを支える温かい職員集団であったことが、本校教育への高い評価につながる要因の一つではないかとも思う。</p> <p>・今年度も、本校の特色である「一輪車教育」を柱に、今後も、子どもたちがたくましく健やかに成長していけるような教育活動を進めていきたい。今年度も、教師集団が一致団結し、児童一人一人を大切に教育を進めていきたい。また、地域の自然や人材を活用した体験活動をより充実させることにより、子どもたちにコミュニケーション力を含む「生きる力」をつけさせる取組をさらに進めていきたい。そして、学校の思いや、児童や職員が、校訓の通り“精いっぱい”取り組んでいる様子等を、具体的に機会あるごとにお便り等で紹介し、これからも、“保護者・地域に信頼され愛される魅力ある学校づくり”を推進していきたい。</p>



5 総括表				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校経営方針	学校教育目標、校訓及び重点項目の周知徹底	・教職員、児童、保護者、地域の方々に周知し、認知率を教職員は100%、児童は90%、その他は85%以上にする。	・教職員には職員会議で、児童には全校朝会等で説明し、掲示物でも周知を図る。 ・保護者へは、校長の学校便りや各担任からの学級通信、懇談会で周知する。 ・地域の方には、学校便りや学校ホームページ、各団体の会合等で説明する。
	○教職員の資質向上	・校内研修の充実 ・研究会等への積極的な参加 ・服務規律の保持	・算数科を中心に授業研究を進め、担任全員が年1回の全校授業研究会を実施する。 ・全職員が、センター講座、県内外の研究発表会等に積極的に参加し、出張報告会で報告する。 ・教職員の事件・事故0件を目指す。	・講師の指導助言を得て、「分かる授業」への創意工夫と客観的な自己評価をする。 ・各種研究会の案内を随時全職員に周知し、参加を積極的に勧める。 ・職員一人一人の「服務規律」のファイルを活用し、機会あるごとに具体的な事例をあげて服務規律についての注意喚起を促す。
	○開かれた学校づくり	・家庭との連携（育友会との連携強化） ・学校だよりの充実 ・地域（公民館、各種団体等）との連携	・年6回の育友会評議員会を開催し、育友会行事の充実を図る。 ・様々な会合の中で情報交換を積極的に行う。 ・学校便り（波小だより）を発行し、校区内の家庭へも配布する。 ・ホームページの更新率を随時70%以上にする。 ・保護者や地域の方々へ毎月の授業参観や学校行事等の案内及び周知を図り、保護者の参加率を75%以上、地域住民の来校を100名以上にする。 ・学校評議員会の充実	・学年分会行事や専門部活動を充実し、保護者間の連携を密にする。 ・案内状等を早めに作成配布し、保護者の参加計画を立てやすくする。 ・学校便り、学級通信等を定期的に発行し、ホームページ等で随時更新することにより、情報発信をする。 ・授業参観や学校行事等の参加を積極的に呼びかけたり、学校に気軽に来校できる明るい雰囲気作りに努める。 ・学校評議員会の協議内容の充実に努める。

教育活動	●◎学力向上・言語活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な学習習慣の形成と算数科における学力向上と基礎・基本の確実な定着</li> <li>言語活動の充実</li> <li>全国学力学習状況調査等の結果の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校では「チャイム席」「次の時間の準備」、家庭では「テレビなし」「机の上で」の達成率85%以上を目指す。</li> <li>全国学力学習状況調査の結果を分析・検討し、指導に生かす。また、CRT検査において「数学的な考え方」「表現・処理」「知識・理解」の3つの観点項目が、どの学年も全国通過率100を超える。</li> <li>校内研究の柱に「伝え合い」を設定し、授業の中や各活動での「話す・聞く」活動を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ぐんぐんだよりを発行し、学力向上への取組について保護者に周知し、家庭での学習習慣について協力をお願いする。</li> <li>年間を通じて、「いいもり山スピーチタイム」を実施する。低・中・高グループごとのスピーチタイムに加えて、全校スピーチタイムを毎学期1回ずつ実施する。</li> <li>分析ツールを活用した職員研修会を実施する。</li> </ul>
	●◎心の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳の時間の充実</li> <li>教育活動全体を通しての計画的、組織的な人権・同和教育の推進</li> <li>心の教育3セットの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年1回以上、全学級で保護者が参加する授業公開を行う。</li> <li>相手の立場を考え、みんなで助け合えるようにするため、縦割り班活動を通じた仲間作りを充実させる。</li> <li>ものを大切にし、人を思いやる優しい心をもち、ふるさと「伊万里」を愛する子どもを育てるため、「伊万里っ子しぐさ」や童謡歌集を活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>週1時間の道徳の授業を確保する。</li> <li>いのちの教育指導資料や心のノートを活用し、命に関わる内容の授業を展開する。</li> <li>各学級で毎日、「伊万里っ子しぐさ」カレンダーを読み上げたり、童謡を放送で流したり集会などで歌ったりする機会を設ける。</li> </ul>
	●◎健康・体力づくり（食育・性教育の推進等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>望ましい生活習慣の形成</li> <li>食育を通じた健康・体づくり</li> <li>性教育の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一輪車を通して、平衡感覚を身につけると同時に体力の向上を図る。</li> <li>う歯やかぜの罹患率を減少させる。</li> <li>年間を通して、性教育の指導を行う。</li> <li>年間を通して、食育に関する授業や指導を担当及び養護教諭が行う。</li> <li>栄養教諭と養護教諭による講話・授業を年1回実施する。</li> <li>「朝ご飯」を食べる児童の率を100%目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎週木曜日、朝の時間を活用した「健康タイム」や年に数回一輪車教室を設定する。</li> <li>毎日ハンカチ調べを実施し、衛生や健康管理の意識向上を図る。</li> <li>学年に応じて、性教育年間指導計画を作成する。</li> <li>給食後に「歯磨き推進曲」、2校時の休み時間に「手洗い・うがい推進曲」を流し、意識の定着と継続を図る。</li> <li>養護教諭や栄養教諭等との連携を図った食育指導を行う。</li> <li>養護教諭による「保健便り」で保護者への啓発・協力を図る。</li> </ul>
	◎人権・同和教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の子どものニーズに応える教育の推進</li> <li>いじめ・不登校への対応</li> <li>情報モラルの指導</li> <li>人権感覚の育成</li> <li>職員研修の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども支援協議会を月1回確保し、児童の実態把握に努める。</li> <li>いじめなし、不登校児0を継続する。</li> <li>パソコン・携帯電話使用の際のルール・マナーの周知徹底を行う。</li> <li>部落差別、賤称語等について職員研修を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習面、行動面等における気になる子を把握し、支援方法を考える。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーや関係機関とも連携を取りながら、よりよい方法を考える。</li> <li>人権集会を実施すると共に、事前・事後指導において相手を思いやり大切にする人権意識を育成する。</li> <li>育友会役員会や保護者会等で、パソコンや携帯電話の使用についての危険性等の情報を提供し、使用の際には家庭での約束を必ず決めるよう喚起する。</li> </ul>
特定課題	●小学校低学年の学習環境改善充実	基本的生活習慣・学習習慣の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>始まりの時刻を守らせる。（チャイム席）</li> <li>教師や友だちの話を最後まで聞くことを徹底させる。</li> <li>授業前に学習道具を準備することを徹底させる。</li> <li>*上の各項目の達成率について、いずれも90%以上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チャイムの鳴り始めで行動させる。</li> <li>話を聞く際の3つの約束事を徹底させる。</li> <li>学習準備をしてから休み時間をとるように声をかける。</li> </ul>
	◎家庭教育力の向上と「家読」の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>テレビ視聴の制限</li> <li>「家読」の推進</li> <li>伊万里っ子しぐさの徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各家庭が「テレビ視聴時間（平日は2時間以内）」と「家読の日（月1回以上）」を決め、目標の達成率80%を目指す。</li> <li>「伊万里っ子しぐさ」の周知率を、児童・保護者ともに85%以上をめざす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>育友会と連携し、テレビ視聴や「家読」への取組についての啓発と習慣化を図る。がんばりカレンダーを作成・配布・回収し、児童及び保護者の意識高揚を図る。</li> <li>「伊万里っ子しぐさ」カレンダーの項目については、全校的にも各学級でも児童に周知・説明し、保護者にもホームページで紹介する。</li> </ul>
	◎校種間連携（幼・保・小・中連携の推進）	<ul style="list-style-type: none"> <li>青嶺中学校区教職員連絡協議会の実施</li> <li>幼保小連携の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>北部4校の連絡協議会を年に3回以上設定し、各校の取組について共通理解を図り、また職員との交流を図る。</li> <li>夏季休業中に、全職員が、保育園または幼稚園への保育参観を行う。</li> <li>波多津東小、黒川小との交流について計画する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各校の校内研究、学力向上方策について、協議会等を通じて、広く情報を収集する。</li> <li>幼保小連絡協議会及び相互授業参観を行い、情報交換や相互理解を図る。</li> <li>学校便り（行事予定）並びに保護者授業参観の案内を各校・園にも送り、学校の様子を積極的に知らせたり来校の機会をつくったりする。</li> <li>全校または学年単位での交流について計画し、できれば本年度中に実施する。</li> </ul>

●は共通評価項目、○は独自評価項目